

# 農作物技術情報 第4号 果樹

発行日 令和8年6月25日  
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
 編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当(電話 0197-68-4435)

携帯電話用  
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
 パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ りんご 結実は、概ね平年並みを確保していますが、中心果結実率は平年より低い傾向がみられ、前年の干ばつの影響で花芽が少ない樹体も散見されます。良質な果実を見極めつつ、摘果を進めましょう。
- ◆ ぶどう 生育は平年より進んでいます。結実を確認のうえ、状況に応じた適切な摘房、摘粒を進めましょう。
- ◆ 共通 病害に対する降雨前の予防散布に努めましょう。また、園地や周辺での害虫の発生状況をよく観察しましょう。

## りんご

### 1 生育概況

#### (1) 結実の状況

県内生育診断圃の結実調査結果(表1、表2)によると、生育診断圃の「ふじ」及び「ジョナゴールド」の結実率(県平均)は、花数結実率と花そう結実率は概ね平年並みですが、中心花結実率は平年より低くなりました。

生育診断圃の花そう結実率(表1、表2)と花芽率(表3)から判断する作柄は、「ふじ」は並から良好、「ジョナゴールド」は良好と考えられます(表4)。ただし、盛岡の生育診断圃の「ふじ」は、花芽率が34.1%と低く、作柄はやや不良から並と考えられます。

各農業改良普及センターの調査によると、結実量は概ね確保されていますが、降霜による花器の萎縮が確認され、目通りの高さより低い枝では、中心花結実率や花数結実率が低い傾向が見られました。本年は、市町村により3~9回の低温に遭遇しており、一部の地域では、適正着果量の確保が難しい園地があります。また、開花期間中の降雨や強風の影響が懸念されます(図1、図2)。なお、局所的に降ひょうも確認されました。

このように、本年の結実状況は園地ごとの差が大きいと考えられ、前年の干ばつの影響で花芽が極端に少ない樹体も散見されていることから、摘果の際は、着果量と果実の素質をよく観察する必要があります。

表1 生育診断圃における「ふじ」の結実率

市町村	地区	開花始 (月/日)	満開日 (月/日)	花数結実率(%)			花そう結実率(%)			中心花結実率(%)			結実率の平年・前年差(+、- %)					
				本年 (R8)	平年	前年 (R7)	本年 (R8)	平年	前年 (R7)	本年 (R8)	平年	前年 (R7)	花数結実率		花そう結実率		中心花結実率	
													平年差	前年差	平年差	前年差	平年差	前年差
盛岡市	三ツ割	4/27	5/2	84.5	84.3	91.2	100.0	96.5	100.0	60.4	87.0	95.5	0	-7	4	0	-27	-35
花巻市	石鳥谷 <sup>※1</sup>	4/25	4/30	62.9	74.7	65.6	95.1	94.7	97.7	60.0	87.2	61.7	-12	-3	0	-3	-27	-2
奥州市	江刺樽輪	4/28	5/3	75.0	70.8	85.2	88.2	92.7	100.0	69.8	73.4	92.0	4	-10	-5	-12	-4	-22
一関市	狐禅寺 <sup>※2</sup>	4/24	4/28	45.8	57.4	69.2	76.9	90.1	99.1	44.2	66.6	47.3	-12	-23	-13	-22	-22	-3
陸前高田市	米崎	4/23	4/29	69.8	65.0	46.5	95.1	93.6	90.0	65.8	75.1	57.5	5	23	2	5	-9	8
宮古市	崎山	4/29	5/4	85.2	85.0	67.6	90.1	97.6	90.6	83.5	89.6	81.9	0	18	-8	-1	-6	2
二戸市	下山井	4/26	5/2	63.9	54.1	70.6	97.5	89.2	100.0	67.5	66.0	88.0	10	-7	8	-3	2	-21
県平均(参考)		4/26	5/1	69.6	70.2	70.8	91.8	93.5	96.8	64.5	77.8	74.8	-1	-1	-2	-5	-13	-10

※1: R4年度より定点が変更となったため、平年値は花巻市上根子(前定点)の値を使用。

※2: R2年度より定点が変更となったため、平年値は一関市花泉(前定点)の値を使用。

※3: 平年値は昭和60年~令和7年の平均(地点変更時はその年次からの平均)

表2 生育診断圃における「ジョナゴールド」の結実率

品種	開花始 (月/日)	満開日 (月/日)	花数結実率(%)			花そう結実率(%)			中心花結実率(%)			結実率の平年・前年差(+,-%)					
			本年 (R8)	平年	前年 (R7)	本年 (R8)	平年	前年 (R7)	本年 (R8)	平年	前年 (R7)	花数結実率		花そう結実率		中心果結実率	
			平年差	前年差	平年差	前年差	平年差	前年差	平年差	前年差	平年差	前年差	平年差	前年差			
ジョナゴールド	4/24	4/29	64.4	69.1	69.6	95.2	94.3	96.8	58.4	73.2	62.7	-5	-5	1	-2	-15	-4

※1: 平年値は平成12~令和7年の平均(地点変更時はその年次からの平均)

表3 生育診断圃における花芽率

市町村	地区	ジョナゴールド				ふじ			
		R8年産	R7年産	R6年産	平年	R8年産	R7年産	R6年産	平年
盛岡市	三ツ割	78.6	76.1	75.8	81.1	34.1	73.1	55.8	65.2
花巻市	石鳥谷※2	97.5	90.8	100.0	80.7	72.0	94.9	85.5	66.0
奥州市	江刺樽輪	81.5	87.5	80.2	77.1	70.0	50.4	74.4	68.4
一関市	狐禅寺※3	76.2	94.3	92.1	81.5	78.0	74.8	75.2	70.5
陸前高田市	米崎	90.0	95.0	79.2	80.7	82.5	89.5	76.7	71.7
宮古市	崎山	-	-	-	-	92.2	91.0	89.2	80.5
二戸市	下山井	77.8	92.1	80.7	81.1	75.8	83.6	67.6	72.3
県平均※1		83.6	89.3	84.7	80.4	72.1	79.6	74.9	70.7

※1: 県平均に農研センターの値は含まれていない。

※2: R3年産より定点が変更となったため、平年値は花巻市上根子(前定点)の値を使用

※3: R3年産より定点が変更となったため、平年値は一関市花泉(前定点)の値を使用

※4: 調査は前年12月に実施

表4 花芽率と結実率による作柄表

花芽率(%) 結実率(%)	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	作柄
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	不良
10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	やや不良
20	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	
30	0	3	6	9	12	15	18	21	24	27	30	並
40	0	4	8	12	16	20	24	28	32	36	40	
50	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	良好
60	0	6	12	18	24	30	36	42	48	54	60	
70	0	7	14	21	28	35	42	49	56	63	70	良好
80	0	8	16	24	32	40	48	56	64	72	80	
90	0	9	18	27	36	45	54	63	72	81	90	良好
100	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
作柄	不良		やや不良		並		良好					

※昭和55年度岩手県果樹指導要項より(一部修正)

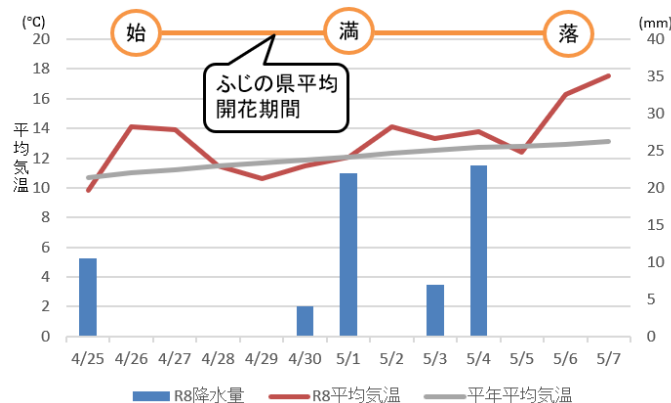


図1 開花期前後の気象経過(気象データ:盛岡)

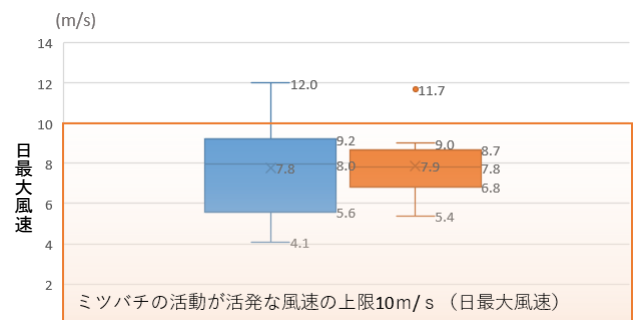


図2 開花期における日最大風速  
(気象データ:盛岡 4/25~5/6、左:令和8年、右:令和5年)

## (2) 果実の生育状況

本年の満開日（県平均）は平年より8日程度早まり、6月1日時点における果実生育（横径）の平年比は、県平均で「ジョナゴールド」が128%、「ふじ」が148%でした（表5）。良質な果実を見極めつつ、花芽形成と果実肥大を促すため、適正着果数となるよう摘果に努めてください。

表5 県内のりんごの生育状況（果実横径、6月1日時点）

市町村	地区	ジョナゴールド					ふじ				
		本年(R8)	平年※4	比	前年(R7)	比	本年(R8)	平年※4	比	前年(R7)	比
盛岡市	三ツ割	25.1	17.9	140%	18.8	134%	23.6	15.6	151%	15.3	154%
花巻市	石鳥谷※2	26.5	20.4	130%	19.2	138%	23.6	16.6	142%	15.9	148%
奥州市	江刺樽輪	24.6	20.7	119%	20.8	118%	21.9	17.1	128%	17.7	124%
一関市	狐禅寺※3	24.8	19.4	128%	20.9	119%	23.9	16.2	148%	19.5	123%
陸前高田市	米崎	26.3	21.6	122%	22.6	116%	25.0	17.8	140%	21.0	119%
宮古市	崎山	-	-	-	-	-	25.3	15.9	159%	17.7	143%
二戸市	金田一	23.5	17.4	135%	19.8	119%	24.5	14.5	169%	18.9	130%
県平均値※1(参考)		25.1	19.6	128%	20.4	124%	24.0	16.2	148%	18.0	133%

※1: 県平均値に農研センターのデータは含んでいない

※2: R4年度より定点が変更となったため、平年値は花巻市上根子(前定点)の値を使用

※3: R2年度より定点が変更となったため、平年値は一関市花泉(前定点)の値を使用

※4: 平年値は、ふじが昭和60年～令和7年の平均、ジョナゴールドが平成12年～令和6年の平均(地点変更時はその年次からの平均)

## 2 栽培管理

7月に入ると新梢の伸びはほぼ停止し、翌年の花芽分化が始まります。着果過多や日照不足、高温乾燥などは花芽形成を阻害する要因になりますので、①早期の適正着果数への摘果、②徒長枝の整理などによる日照条件の改善、③病虫害防除による健全な葉の維持、④適正な土壌水分管理に努めます。

### (1) 早期摘果

りんごの果実は、摘果作業が遅れると小玉果となる可能性が高まります。表6の摘果強度を参考に、仕上げ摘果および着果量の見直しを進めてください。園地ごとに結実量にばらつきがみられるので、次年度のためにも計画的に摘果を進めます。

### (2) 摘果のポイント

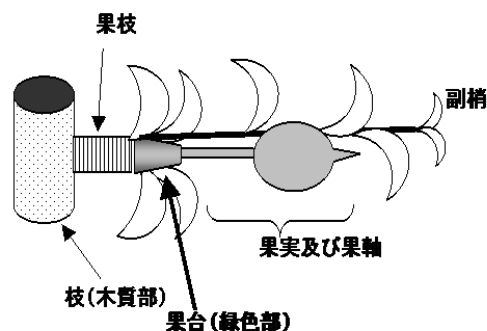
ア 三角実や扁平果など果形の悪い果実、病虫害の被害果、サビなどの傷害果は摘果します。傷害果が多発し、正常果で適正着果数を確保できない場合は、傷害果もある程度残します。

イ 「ふじ」で果台が極端に長いもの(25mm以上)や短いもの(10mm以下)は、斜形果の発生割合が高くなるので、できるだけ摘果します(図3)。

ウ 「ふじ」では、途中で肥大の止まる果実が出てくるので、随時見直しを行います。

表6 主要品種の摘果強度

品種名	摘果強度
	わい性樹
紅玉	4～5頂芽1果
紅いわて	5頂芽1果
ふじ、つがる、王林、さんさ、千秋	5～6頂芽1果
ジョナゴールド、陸奥、北斗	6～7頂芽1果



○ 果台とは、果実の付け根の緑色部分  
○ 果台の長過ぎる果実は、青味果や小玉となる可能性が高い。

図3 りんご着果部の構成

### 3 土壌水分管理

りんごにとって、土壌水分を適正に管理することは、果実肥大、花芽の確保など健全な樹体の維持に有効です。

#### (1) 乾燥対策

今後、高温、干ばつで経過する場合は、養水分の競合を避けるため草生を短く維持し、樹冠下に刈草やわら等でマルチします。また、畑地かんがい施設の整備が進められている地域では、適宜かん水を実施します。特に、今年定植した苗木や幼木は根量が少なく、乾燥の影響を受けやすいため、優先してかん水を実施してください。

#### (2) 排水対策

降雨が続く、園地内が過湿となる場合、根部が障害を受けて樹勢が衰弱することがありますので、園地内に滞水しないよう、溝を掘るなど排水対策を講じます。

### 4 当面の高温対策

#### (1) かん水

土壌水分の急激な変化による樹体の水分ストレスによって、日焼け果の発生が助長されるため、高温乾燥が続く場合はかん水を行い、土壌水分を適切に保つよう努めます。

#### (2) 被覆資材の利用

極早生品種「紅ロマン」では、気温が急激に上昇する危険のある梅雨明け後に、被覆資材（商品名：サンテ®）で果実を被覆することが対策として有効です。果面が受ける日射量が減少し、果面温度の上昇が抑えられ、日焼け果の発生を軽減できます（写真1、写真2、図4）。

日最高気温が32℃以上の日数に比例して、日焼け果の発生割合や発生程度は大きくなる傾向があるので、梅雨明け後は、週間天気予報などを活用しながら対策を講じます。

取り付ける際は、果実の肩までしっかり被い、取り外しの際は、果実が落下しないよう丁寧に行います。なお、収穫時までサンテ®で被覆しておくこと、果実の着色に影響を及ぼすので、収穫予定の数日前に取り外す作業が必須となります。



写真1 「紅ロマン」における日焼け果の症状(左)とサンテ®の被覆状況(右)

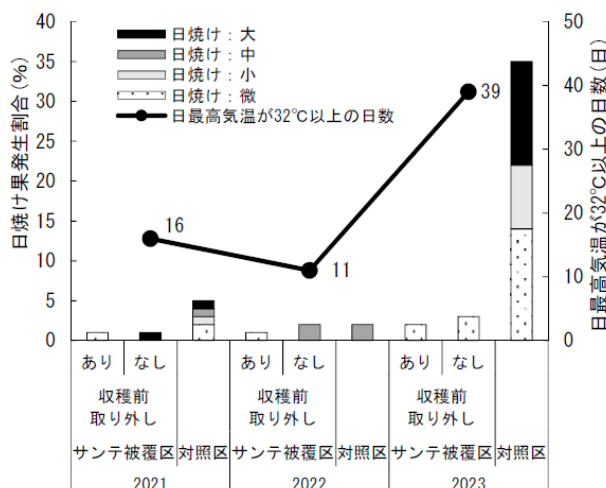


図4 各年次における日最高気温が32℃以上の日数とサンテ®の被覆が日焼け果の発生に及ぼす影響 (アメダス地点：北上市、品種：「紅ロマン」)

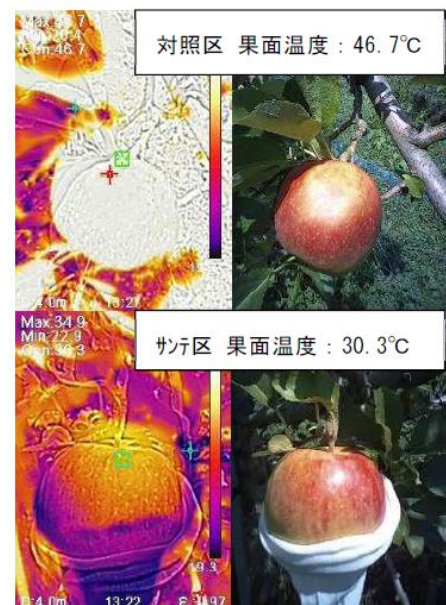


写真2 サンテ®の被覆が「紅ロマン」の果面温度に及ぼす影響 (撮影日：令和5年8月1日13:20、気温31.2℃)の被覆状況(右)

## 5 病害虫防除

- (1) 病害虫防除所が発行する発生予察情報を参考に防除を進めてください。
- (2) 梅雨に入り降雨が続くようになると、斑点落葉病や褐斑病、輪紋病、炭疽病等の感染が増えてきます。また、気温が高くなりハダニ類などの害虫も発生してきます。週間天気予報などを活用して降雨の合間を捉え、散布間隔が空き過ぎないように防除を実施してください。特に、病害については、降雨前の予防散布に努めるとともに、薬剤がかかりやすいように不要な徒長枝を剪除し、散布ムラが生じないように十分量を丁寧に散布します。
- (3) 果樹カメムシ類の飛来が見られたら、カメムシ類に効果のある剤を特別散布します。なお、養蜂活動が行われている地域で殺虫剤を散布する場合は、養蜂家と協議の上、散布時期を事前に通知するなど、ミツバチへの危害防止に努めます。

## ぶどう

### 1 生育概況

定点観測地点（紫波町）の「キャンベルアーリー」の調査結果では（表7）、満開期は6月5日で平年より10日早く、前年より7日早くなりました。展葉期から開花期まで、平均気温が高めで推移したことから、生育は促進されました。ただし、6月上旬から中旬は、最低気温が平年を下回る日もあったことから、開花の進捗は品種によってバラつきがみられています。

6月15日現在の新梢の生育は概ね順調で、展葉期が早い分、新梢長や節数、房長は平年を上回っています。

表7 ぶどう(キャンベルアーリー)の生育状況(観測地点:紫波町赤沢)

調査年次	生態(月/日)			6月15日時点での生育		
	開花期			新梢長 (cm)	節数 (葉数)	房長 (cm)
	開花始	満開期	落花期			
<b>本年(R8)</b>	<b>6/2</b>	<b>6/5</b>	<b>6/10</b>	<b>111.7</b>	<b>14.4</b>	<b>15.0</b>
平年	6/12	6/15	6/20	81.6	10.6	10.7
平年差・比	-10	-10	-10	137%	136%	140%
前年(R7)	6/8	6/12	6/16	103.6	13.2	14.1
前年差・比	-6	-7	-6	108%	109%	106%

※1: 平年値は昭和49年～令和7年の平均

### 2 栽培管理

- (1) 摘粒（詳細は令和8年5月28日発行の「[農作物技術情報第3号 果樹](#)」を参照）
  - ア 果粒肥大を促すとともに、裂果や病害の誘発防止、着色向上といった品質確保に必要な不可欠な作業です。  
**満開後30日以内の終了を目標としますので、今年は7月上旬までに実施します。**
- (2) 袋掛け
  - ア 7月上旬以降できるだけ早い時期に実施します。摘粒などが遅れる場合には、晩腐病の一次感染期を逃さずに防除し、その後、袋かけを行うことが大切です。
- (3) 摘房
  - ア 「キャンベルアーリー」では、表8を参考に、葉数に応じて着房数を決定してください。最終的には一坪(3.3㎡)当たり、新梢数20本、着房数27～30房が基準となります。樹勢が弱い場合は、1房当たりに必要な葉数を参考に、葉数に応じて着房数を制限してください。
  - イ 「紅伊豆」「シャインマスカット」などの大粒種では、1新梢1房以下が基本です。ただし、種あり栽培とする場合は、一気に摘房せず、強い新梢は、1新梢2房着果させておき、着色期前までに1房に摘房していきます。弱い新梢は、早期に1新梢1房とし、同様に着色期をめぐりに、伸長の程度に合わせて2～3新梢1房に調整していきます(表9、図5)。
  - ウ 着色期以降も着果が多いままだと、着色や糖度上昇が遅れ収穫自体も遅れるなど、樹体の凍寒害の危険につながりますので十分に注意してください。

表8 主な品種の収量構成要素の目安

品種	仕立様式	新梢数 (本/坪)	着房数		必要な葉数	目標収量 (kg/10a)
			(房/坪)	(房/本数)		
キャンベルアーリー	短梢	20	27~30	1.35~1.5	1房:12~16枚	2200
					2房:17~22枚	
サニールージュ※1	短梢	19~20	16	0.8	15~18枚	1700
紅伊豆	長梢	15	10~12	0.67~0.8	-	1200
シャインマスカット※2	短梢	8	-	0.8	-	1500

※1「サニールージュ」は暫定値

※2「シャインマスカット」は、主枝1m当たりの新梢数及び房数

表9 紅伊豆の新梢の強弱の目安

新梢の強弱の目安				実測値※			
判断時期	新梢の勢力	枝の長さ	展葉枚数	満開期		収穫期	
				梢長(cm)	節数	梢長(cm)	節数
満開期	強	75cm以上	13枚以上	93.0	14.0	341.9	40.5
	中	50~75cm	12~13枚	61.0	13.0	228.4	33.0
	弱	50cm以下	12枚以下	43.9	11.0	106.4	22.5

※実測値は昭59~63年平均値(大迫試験地)

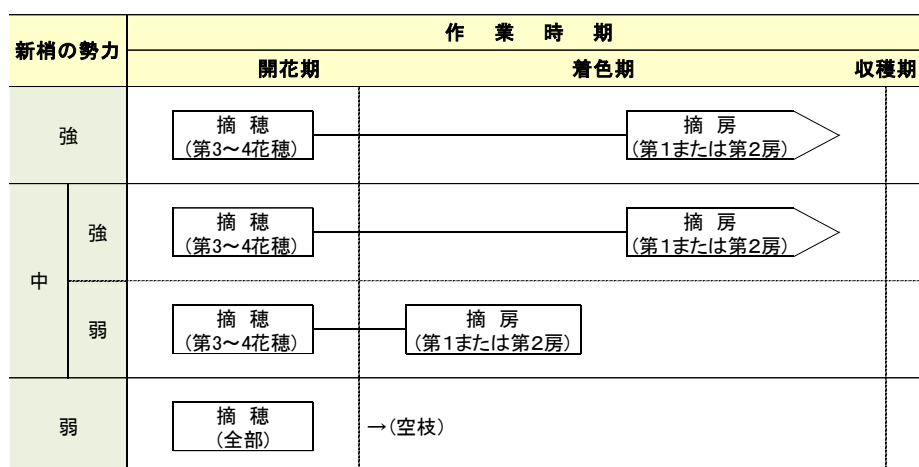


図5 「紅伊豆」の新梢の強弱と摘穂・摘房時期

#### (4) 土壌水分管理

ぶどうの果粒が柔らかくなってきた時期以降に、まとまった降雨や急激なかん水を行うと裂果が助長されることがあります。

こうした園地では、点滴かん水等で少量の水を定期的にかん水することにより裂果の発生を軽減できるといった報告がありますので、必要に応じて実施を検討してください。

かん水を実施できない園地では、稲わらなどを用いてマルチを行い、土壌水分の変化を小さくするようにします。

降雨が続く場合は、雨よけハウスの雨樋等を点検し、園地内に水が停滞しないよう、溝を掘るなどの排水対策を行ってください。

### 3 病害虫防除

- (1) 病害虫の発生状況に合わせて適期防除に努めてください。
- (2) 薬剤により、果粉の溶脱、果面の汚れなど品質を損ねることがありますので、使用方法・時期などに注意してください。
- (3) ぶどうの晩腐病(写真3)は、りんごの炭疽病の病原菌と同じものです。りんごでは、近年、病原性の強い *C. gloeosporioides* による被害が見られます。6月後半が高温で推移する場合、ぶどうでは晩腐病の多発を警戒し、入梅期(6月中下旬～7月上旬)と8月の防除を徹底します。病原菌は雨媒伝染するため、降雨前の予防散布を徹底し、樹上の発病果は重要な伝染源となるため、見つけ次第摘み取り処分します。



写真3 晩腐病の病徴  
(品種：ロザリオロッシ)

## ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyuu/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
  - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
  - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
  - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
  - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
  - ・ 背を向けて走って逃げない
  - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
  - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は7月30日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

#### 熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

**6月1日～8月31日は  
農薬危害防止運動期間です**

- 農薬散布時は、近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬は適切に保管・管理しましょう